35　地球は回る宇宙船！－－環境を考える総合学習－－

なんでも自分の力でという縄文以前の時代から，社会を構成する人間それぞれが仕事を分担し，専門性を生かして世の中のために尽くす時代になった。大学を卒業し奉職したころには，田畑の仕事のかたわら，ニワトリを飼い，茶を栽培し，炭を焼き，味噌を作り，畑で育てたこんにゃく芋を原料にこんにゃくを作るという村の生活に驚かされたものであるが，今はもうこんな姿はない。１つの仕事に全力をあげ，その他の仕事は他人の力を借りる時代なのであろう。その１つが教育という仕事である。親として誰もがしてきた仕事のうち学校教育になじむものを請け負って専門的にこなす者（家庭教育になじむものまで引き受けているような気がするところもあるが…）が教師である。

だから，私たちは「教えるプロ・育てるプロ」でありたい。そして，子どもたちには「学ぶプロ・育つプロ」としての力をつけなくてはならないのである。校長も同じことである。校内で最年長の教師として，「教えるプロ・育てるプロ」の力を発揮したいと思う。

幸い（と私は思っている），生駒小学校には，卒業を前にした子どもたちに校長が授業をするという伝統があった。教科の年間指導計画から独立して行うこの時間には，未来に生きる子どもたちに考えさせたい内容を選び，年１度の研究授業として取り組んできた。

その１つに，「地球は回る宇宙船」というタイトルで行った授業がある。これは，社会・理科・道徳を合科的に扱ったもので，平成５年３月のことであった。６年１組から４組まで，２日間にわたって行ったこの授業には，時間を繰り合わせて多数の教員が参観し，子どもたちが学習後の思いを寄せてくれたことはうれしいことであった。

この時間に取り上げたのは，これからますます大事な学習内容とな

ってくると思われる「環境」の問題で，学習指導案には，
「地球はかけがえのない大切なものであることを知り，自分たちのできることで進んで環境保全に参加しようとする心を育てる」
という目標をあげている。

この学習のはじめには，音楽担当の，奥村みずほ，藤井潤子の２人の先生による二重唱「まわる宇宙船」を聴いた。この歌は，詩人としても有名な藤本武重先生（ペンネーム藤哲生・元田原本小学校長）の作詩，ぬまもとさとる氏の作曲によるものである。

ぼくらがうまれ　ぼくらがそだった　ふるさとは
みどりの地球だ　宇宙船
まわる　まわる　まわる　まわる宇宙船に　のっかって
ふれあう　よりそう　なつかしさ　あったかさ
ぼくらはうたう　ぼくらはよびかける
ヤッホー　ヤッホー　ヤッホー
はるかな宇宙　かがやく銀河　ぼくらのなかま　星たちよ

まだまだ続くこの歌を聴かせたあと，子どもたちに「まわる宇宙船」の意味を考えさせた。子どもたちからは，「これは私たちの住んでいる地球のことだ」という答えが返ってきた。

この宇宙船は時速がおよそ11万kmという猛スピードで９億4000万kmという長い長い道のりを走り，１年かかって太陽の回りを一周する。これが私たちの宇宙船・地球号なのである。

この宇宙船で考えなければならない大切なことは，
「必要なものは，すべてこの宇宙船の中だけで手に入れなければならない，要らなくなったものがあっても他に捨てることはできない」と

いうことである。当然，今，問題になっている「大気や水の汚染」「地球の温暖化」「緑が減ってきたこと」「オゾン層の破壊でみんなの健康が心配されること」などのすべては，この地球上で，自分たちの力で，解決しなければならない。

地球は，私たちだけのものではない。すべての生物のものであり，「未来の人たちや未来の生物から預かっている財産」と言うこともできる。このような地球を大切にする気持ちを，大人になっても持ち続けていてほしいものだと思う。

そんな願いを"VOICE OF EARTH I-NASA SPACE RECORDINGS OF EARTH"を BGM に話し聞かせた。大きく波打つ宇宙の嵐の中を走り続ける地球を心に描きながら，地球を愛する気持ちを高めたいと考えた。

※ "VOICE OF EARTH I-NASA SPACE RECORDINGS OF EARTH" は，ボイジャー１・２号機などの宇宙探査機が採取した，地球の磁気圏や宇宙自身の電磁ノイズ，太陽風と惑星や衛星との相互作用で放出される荷電粒子などのデータ（バイブレーション）を 20～20,000Hz の人間の可聴帯域に加工したもので，リラクーゼーション用のものである。

授業が終わったあと，担任が子どもたちの作文を届けてくれた。次にあげたのは，そのいくつかである。

「クラス全員で，教室をきれいにすることができるんだから，地　球の人全員が協力すれば地球を守ることができる」
という校長先生のお話を聞いて，ほんとうにその通りだなと思いました。人々の生活に役立っているフロンだけど，それがオゾン層をこわしています。私たちの地球なんだから，大切にしなくっちゃいけないと思いました。

校長先生の授業のあと，
「今，私たちがかかえている問題は他人のことではない。私たち　自身の問題だ。みんなが協力すれば，何とかなるんだ。みんな　が協力してなんとかしないといけないんだ」
と考えました。
かけがえのない地球，これから私たちが，そして，私たちの子孫がずうっと長く使う地球なのです。地球は，私たちが考えている以上に大切なものですが，今，ＳＯＳを出しています。
一人一人が，何をどうするかを考えなくてはと思いました。

この授業を終えて約 20 日後，小学校の最大の行事である卒業式がやってきた。この式では，共に学んだ地球を愛する心をもう一度確認し，そうした気持ちを一層高めたいと考えた。そこで，式辞の中で「まわる宇宙船」の歌声と"VOICE OF EARTH"のざわめきをＢＧＭに話すことにし，放送担当の村井敏宏先生には，
「話がこんなふうに進んでいったころに，流してほしい」
と依頼しておいた。
話が一段落したころ，静かに「まわる宇宙船」の二重唱が流れてきた。
「この歌を覚えていますか」
という問いに対しては，
「まわる宇宙船だ」
という答えが返ってきた。この後，"VOICE OF EARTH"のざわめきをバックに，21 世紀の主人公としての生き方を語った。
これは，文字通り，６年生への最後の授業であった。